

大和女誠

友田春巳弟
弟満五



唐土曹大家著和解

女教 第一 大和女誠 全

江戸

日本橋通十軒店

播磨屋勝五郎板



曹大姑ハ後漢の世
扶風の人班彪の女
曹世林に嫁る
り法ありて方
く持する
班固の作れ
送ぬを補いハ表
天文志を撰めり
曹の時の天子
帝の詔とあり
帝子漢書
入一皇后
法を人
導き
つてけ女誠七章
を他り献せ
しものなり



大和女誠

卑弱章第一

古女を生バ三日ハ道を牀下ニふ
 せめこれ尾端を弄せめ所
 して告あきを床下ニ卧し
 とい生卑く弱く一人ハ下る

大正四年二月五日
 藤田莊太郎氏贈

藤田

を主とするを明は主なり。これ
小尾埒を弄むるとハ其方々
らひ難成とるに成主とさふと明
にするを主とて先君は名を
祭祀は継とて主とす。此を
明ふは主なり。このものハ蓋女人

れ常道として礼法の典教なり。
謙讓恭敬として人を先とて己を後
善あるを名とする。とて
惡あれども諱とするにやなく辱
を忍び垢を舍みは恥し畏れ
懼るがごとく是を卑く弱

くして人ふ下るといふ。晩い祿早
 おれて、夙夜は悔るゝとなく。勢
 を私事にとりて、劇きや易と
 を辞せ、取他にならず成て、手
 迹整ひ理むる。是を勤と執ると
 いふ。色を正く――操哉。獨く――て、以

て、主よつゝ、清静にて自まり。
 戯は笑と、好あやなく。酒食を
 潔く齊て、夜つゝ、祖宗に供ふこ
 れを祭祀に、繼といふ。之乃めれ
 苟ふ。飾りて、名称の聞を家と懸
 辱れ。身は在とを、遷るゝハ、等

ふまを見ず。この世の爲。これ
を失へど。何れも名祿乃。安んじ
熟辱れ遠ざかるべし。と云ふ。あ
らんや。

夫婦章第二

夫婦の乃。陰陽。冬。配
び。

神明。通達。信ふ。地
弘義。人倫。の。大節。なり。是
つ。る。禮。ハ。男女。の。際。を。まじ。は
閑。雖。の。義。を。差。せ。り。邪。ハ。由
て。あ。ま。を。い。ハ。重。ん。ぜ。ず。ん。が。み。
から。次。夫。賢。た。ら。ざる。は。以

ゆと御もさるく婦賢なら
きふとにさつて夫の事
しなまはを清め出さ
とさハ威儀廢け婦まの事
らさるや規を義理守る方
初二のこのハ主申一なり今の

君子を慕するは徒ら妻の法
めんハある處らハ威儀の整
ぶんハ家へさるを志すを
主男を訓て檢る書傳を
めつす殊日ま主れ事らざん
がある處らハ礼儀のなせずん

あへりざれとをあらす。但男を
教て女をせんをせん一を家とハ亦此
の教す蔽くらずや。礼れいハ八歳はちさいで
始はじまりしてし出でてし教を一十五じふごに
至いたるまといふ。獨ひとりは依よて
て則すなはとすべからんや。

敬慎章第三
陰陽性を殊こと一男女なんにょの異こと
す。陽ハ剛こつをもつて徳とくと一陰いんを
柔じゆうなるをもつて用もちとハ男なんハ強つよ
を以もつて美うつくと一女にょハ弱じやくを以もつて美うつく
とハ故ゆゑハ鄙しつ穢しといふあり。

男を生バ狼乃如くなれも。ふ
主^{その}にあらんとて恐る女を生む
氣のこしくおまども。狼と虎なら
んとて恐ると。志くらばすなわち
身^みを修るは。敬^{けい}は志をもつ。
強^{つよし}を避るゝハ。明^{あき}く志くとす。

すぐなる目^めで^で房室^{ぼうしつ}は周旋^{しゆせん}して遂^{つい}
 媒^め隙^きとを生ず^う媒^め隙^き既^{すで}に生ず^うれ
 話^わを過^{あや}つ誤^ごを既^{すで}にあやます^うる
 縦^{たて}恣^したるも必^{かならず}然^{しか}る縦^{たて}恣^しす^うる
 作^しると然^{しか}るまを悔^{あは}れ^れの心^{こころ}生^うれ^ること
 是^{こゝ}を忘^{わす}れ^るる家^{いへ}より生^うれ^るる^{こと}

事は曲ると直りとあり。争ひは曲るゝと
あるべし。曲るゝのハ、直るゝのハ、
争ふことなり。是れを曲るゝと直るゝと
あり。曲るゝと直るゝとあり。争ふこと
なり。是れを曲るゝと直るゝとあり。
争ふことなり。是れを曲るゝと直るゝと
あり。

ハけん譴せめ呵あさしよ志いきよ急い怒らとふれ
ハせん楚せ捷せつこれ一たかおれまぬる
おれハ義ぎと和わもつて親おみ恩おんハ好す
を以もつて合あす楚せ捷せつすぐは行おる也やハ
何なんれ義ぎあれなせん譴けん呵あ既いに宣の
きハ何なんの恩おんのこまあらん恩おん義ぎとふ

廃すへれたまぬ難なんるなり
婦ふ行ぎやう章しやう第四
女に曰いわくあま一いち曰いわく法ほふ二に曰いわく
婦ふ言ごん三さん曰いわく容よう四し曰いわく切き
それ婦ふ法ほふといふもかたから
も才さい明めいの絶すえて愛あいなるもあら

バ。婦言と。ふらふら。ず。い。
弁。利。辯。ある。も。い。ら。に。婦。
容。と。ふ。も。必。し。色。気。素。な。
る。も。あ。ず。婦。切。や。い。は。の。な。
ら。ず。切。巧。の。人。は。回。る。り。
そ。い。ら。に。清。深。々。静。め。て。即。

を。あ。ず。整。秘。り。こ。も。り。や。心。
あ。ず。動。静。法。ある。是。を。婦。徳。と。い。
ふ。静。を。忍。ら。び。て。い。い。悪。語。を。い。ふ。時。
あ。り。て。然。て。後。い。い。人。は。厭。れ。ず。
是。を。婦。と。い。ふ。塵。穢。を。盥。ひ。浣。
ち。て。服。飾。鮮。潔。沐。浴。時。を。い。ふ。

一て身垢つた辱ふを恥^{これ}を好^ふ
容^{よう}と心^{こころ}を紡^紡績^績と^もち^もて^て我^{われ}笑^{わら}
とを好^{この}む^も酒^{さけ}食^けを潔^{けが}く^く齊^{いそ}て^て
以^{もつ}て^て賓^{ひん}客^{かく}を奉^{ほう}じ^じ大^{だい}進^{しん}を好^ふ切^きといふ^ふ
け^{この}田^での^のれ^れハ^ハ女^め人^{にん}の大^{だい}酒^{しゅ}の^の事^{こと}
乏^ふく^く魚^{ぎょ}の^のら^らざる^るの^のち^ちあり^り然^{しか}て^て

是^{これ}を^をな^なす^すこと^{こと}甚^お易^{やさ}し^し唯^{ただ}心^{こころ}を^を存^{ぞん}
する^{する}は^は阿^ある^るの^のも^も古^こ人^{にん}い^いへ^へる^ると^とあ^あ
り^りに^に遠^{とん}く^くらん^んや^や家^けに^にを^を欲^{ほつ}き^きば^ば
仁^{しん}切^きは^は至^しる^ると^とは^は此^{これ}の^の謂^いなる^る也^{なり}
專^{せん}心^{しん}章^{しょう}第^{だい}五^ご
禮^{れい}と^と夫^それ^れ再^{さい}要^{よう}の^の義^ぎあ^ある^るは^は再^{さい}
禮^{れい}と^と夫^それ^れ再^{さい}要^{よう}の^の義^ぎあ^ある^るは^は再^{さい}

大和女成

適ゆの文ぶんなり。故ゆゑにいちくまてん天
なり。天てん固こ逃にげる處ところあらば、夫そも
より離はなるべからず。乃しか神かみ祇ただよたが
ふとて、ハて男おとこさまを尋たづす。礼れい義ぎ
愆あやまちあるとたへ、夫そ則すなはち、志しを落おす。夫そ女にょ憲けんよ、曰いは、意いを一人ひとりに得うる。是これを永えい

畢ひつといひ、意い欲よく一人ひとりに失うす。志しを
永えい就しゅうとり、乃しか中ちゆうさまをい
へば、夫そは、心こころを求もとめんとす。夫そ然しかれども、
ものえ、ゆゑに、侮あなづく。乃しか前まへに親あやむ
とて、つゝあらば、ふとて、ふとて、ふとて、

して色を正し。礼儀あつて潔く
もろくあぐはち。耳淫ぐちく
聴くもろく。目邪く。視るもろく
出て治容ちく。入て飾を廢るも
とろく。群衆を聚め舍するもろく
ちく。門戸を看視するもろく。是れ
これするもろく

心を正し。色を正し。心もろく
とろく。動靜輕微し。視聴と
陟嶺ちく。入て見するもろく。髪を
礼り形を壊り。出てハ則竊窺く。態を
ちく。まはく。逆應ちく。家所を
備そく。視るもろく。所をえ敷け

心を空しく色を空しくせ
る事あるをいふなり。

曲從章第六

夫意を一人も得る是を永畢と
し意を一人も失ふ是を永託と
ふ人の志をさへめ心をさへもん

と欲するのいひなり。男姑乃心豈
ずさへ失ふきんや。相恩をいつ
く離るるをいふ。また義をいつ
く自破るものあり。また義をいつ
く男姑心解をいつくす。計所
謂義をいつくす。破るものなり。

り。然らば則男姑の心を何とせん。
 固は世にあり。あはれ。姑あは
 ざることを忘る。是を言ふ。いふ。
 もより。いふ。今も後を。
 姑あは。きこを。いふ。
 なる。いふ。命は。いふ。

是非を違ひ。いふ。曲れると。いふ。
 戦争。いふ。いふ。いふ。
 あは。いふ。いふ。いふ。
 女。いふ。いふ。いふ。
 くんが。いふ。いふ。いふ。
 和井妹系第七

婦人の志をまゝに得るゝハ男
姑の已を先するゝハ男姑
れ已を先するゝハ叔妹の已を先するゝ
ふれ里はゆゝあはれをいゝたお臈
吾と養毀らるゝやゝ一はもゝ
妹ふゝゝゝゝ叔妹のふゝゝゝ失

ふゝゝゝゝ人皆叔妹の失ふゝゝゝ
さゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
和知ゝゝゝ親を求るゝゝゝ
すゝゝゝゝ聖人ゝゝゝゝゝゝ
ハ能過たゝゝゝゝゝゝゝゝ
子ゝゝゝ改るゝゝゝゝ仲尼ゝ

その婦々 いん びせさるゝと いん 嘉 よみ あふ
あふを況 いん や婦人 いん うるものや
賢 いん 女 いん 此 いん 聰 いん 哲 いん の性 いん を いん 備 いん へす
とい いん ても いん 能 いん 備 いん らんや いん 是 いん なる
室 いん 人 いん 和 いん する いん と いん 親 いん ハ いん 傍 いん 掩 いん ハ いん 外 いん 内 いん を
けり いん や いん は いん 惡 いん 揚 いん る いん さい いん 必 いん 然 いん の

勢 いん あり いん 易 いん 日 いん 二 いん 人 いん 心 いん を いん 同 いん うす
道 いん ち いん 主 いん 利 いん と いん 金 いん を いん 断 いん 回 いん 心 いん の いん そ
ま いん 具 いん ち いん ち いん ち いん 葉 いん の いん あ いん ち いん と いん は いん 此 いん
の いん 偶 いん な いん り いん そ いん れ いん 姉 いん と いん 妹 いん と いん 體 いん 教 いん く
し いん ち いん 分 いん ち いん ち いん 恩 いん 疎 いん し いん 義 いん 親 いん の いん 志 いん
淋 いん 媛 いん 湯 いん 次 いん の いん 人 いん ハ いん 則 いん 能 いん 美 いん る いん ち いん 以 いん

好^すを篤^{あつ}く恩^{おん}を蒙^{こう}てりて援^{えん}を
結^{むす}び微^き員^いを以^{もつ}て顯^{あらわ}る^る章^{あきら}り
飛^き過^{あやまち}とて隱^{ひそ}塞^{ふさ}しむ男^{おとこ}姑^{めかけ}
矜^{あはれ}む善^よく主^{しゅ}嘉^{よし}ひ災^{わざ}一^{ひと}郡^{ぐん}卷^{まき}
邑^{いふ}鄰^{りん}曜^{やう}き休^{しゅう}光^{こう}父^ふ母^ぼは延^ひく恙^{さし}
又^{また}恣^し愚^うなる人^{ひと}八^は都^とはたいて則^{すなは}名^な

は託^{たく}してりて自^{みづか}らり妹^{いもうと}お
いては中^{ちゅう}ねすち寵^{ちゆう}よりりて
彌^{あで}り盈^いつ彌^みる既^{すで}に施^した何^{なん}乃^の
和^わすむとて自^{みづか}あらん恩^{おん}義^ぎ既^{すで}に永^{えい}
けは何^{なん}れ終^{しゅう}るは孫^{そん}らん女^めを
つて英^{えい}隠^{ひそ}れり何^{なん}やもち宣^のへ姑^{めかけ}恣^し

てま惛り。毀譽中外に布れ。恥辱
願身は集る。進んで父母の羞を
一。近てハ君子の思をすすす。恥乃
栄辱の本より。顯名を去る。情
ざるべしや。情とてハ姉妹の心を
求るよ。ハ固に謹明より。尚むなり。謹

ハするをち。徳の柄なり。順る則
ぬのり。あるん。や。さ。つ。の。の
心。我。を。あ。は。し。め。る。は。い。と
く。彼。を。左。て。も。悪。る。と。も。な。く。
け。を。在。て。射。る。と。な。り。と。は
恥。乃。謂。る。梨。

大和女誠

女訓の書曹大姑の女誠と第一と云ふ等なり。これ其
と謂ふより其の意もその旨も違ふなり。ゆゑに其の意を
その見女子に是と讀む甚難。余嘗て其の旨を考へ
今能く其の意を和け讀む能くあるなり。あ
て以て其の旨を訓す。柳教導の一助と云ふなり。

天保甲辰夏

林道章誌
同 藏板

大和女誠終

大和女誠

首書繪入

八和女誠講釋

全壹冊

天保十五年甲辰十月

日本橋通十軒店

江戸書林

播磨屋勝五郎板

